

○平貞盛・藤原秀郷との合戦

【書き下し案】

然るに新皇は、井の底の浅き勵を案じて、堺の外の広き謀を存めず。即ち相模より本邑に歸りての後、未だ馬の蹄を休めざるに、天慶三年正月中旬を以て、遺敵らを討む為め、五千の兵を帶して、常陸国に発向すなり。時に奈何・久慈一両軍の藤氏ら、堺に相ひ向かいて、美を罄して大饗す。新皇勅して曰く、「藤氏ら、掾貞盛并に為憲らの所在を指し申す可し。」時に藤氏ら奏して曰く、「聞くが如は、其の身浮雲の如し。飛び去り飛び来りて、宿る処不定なり」と奏し訖ぬ。

【現代語訳案】

さて新皇は、井の底にいて天を望み、浅はかな思慮をめぐらすことを心配して、国外に広く目を向けた広いはかりごとをもたない。まさしく相模から本邑に帰った後、まだ馬の蹄を休めないうちに（間もなく）、天慶三年正月中旬に、残敵たちを討つために、五千の兵士を帶同して、常陸国に出発した。その時奈何・久慈一両郡の藤氏らは堺に向かいあって、美をつくして盛大な饗宴をする。新皇が命令して言った、「藤氏たち、掾の貞盛ならびに為憲たちの居場所を申すべきだ。」その時藤氏たちが奏上して言うには、「聞くようでは、その身は浮雲のようである。飛び去り飛び来て、住むところが定かではないのだ」と奏上し終わった。

【語句等】

●罄……①虚しい。器の中が空になっていゝさま。②尽きる。なくなる。空になる。

③ことごとく。すべて。④古代中国の打楽器の名。

●并……①あわせる。あわす。一つにする。②ならぶ。ならべる。

③ならびに。ともに。④古代中国の州の名。

●本邑（都城本邑か）……大淀川東岸、都城領主館とその周囲に形成された市街地。庄内七カ郷の一つである都城郷の中心地である。

●藤氏……藤原姓の士族。

●大饗……①盛大な饗宴。

②平安時代、宮中または大臣家で正月に行った大がかりな宴会。二宮大饗と大臣大饗を恒例のものとした。おおあえ。

【参考文献】

『デジタル大辞泉』『日本国語大辞典』『漢字辞典 ONLINE』『日本歴史地形大系』